

2020年8月9日

長崎の「原爆の日」にあたって

国民民主党 代表 玉木雄一郎

75年前の今日、人類初の原爆の投下からわずか3日後、この長崎に原爆が投下され、多くの方の尊い命が奪われ、生き残った方々も筆舌に尽くしがたい辛苦を経験されました。長崎におけるすべての原爆犠牲者のご冥福を祈り、ご遺族や今なお健康被害や深い心の傷に苦しんでおられる皆さんに心よりお見舞いを申し上げます。

長崎の「原爆の日」を迎えるにあたり、皆さまの「長崎を最後の被爆地に」との願いを痛切に感じ、多くの皆さまの核兵器廃絶に向けた、たゆまぬ努力に改めて心からの敬意を表するとともに、核兵器のない世界の実現のために、国際社会の先頭に立って、原爆の体験を風化させることなく、核軍縮・核兵器廃絶を訴えていく覚悟を新たにします。また、「核兵器禁止条約」については、核保有国をはじめとする各国に対し理解を促す主導的役割を果たし、早期に批准すべきです。

国民民主党は、世界の核不拡散体制、核軍備管理体制の揺らぎに強い懸念を抱いています。今後とも、唯一の戦争被爆国として、核兵器保有国をはじめ国際社会に核軍縮・不拡散の重要性を訴え、先人の努力が後退することのないよう核軍備管理体制の維持、進展に全力を尽くしてまいります。また、今後とも被爆者援護施策の充実、諸課題の解決に全力を尽くしてまいります。